

創業制度利用者のご紹介について

やまつかずひとぜいりしじむしょ
八松一仁税理士事務所

税理士

八松 一仁さん

Yamatsu Kazuhito

税

理士を志し、紆余曲折ありながらも15年間目標を追い続けてきた八松一仁さん。会計事務所で働いた10年の間にさまざまなケースに接して知見を広げ、お客様の信頼を得た経験が強みとなっています。

コツコツと努力を重ねて税理士資格を取得し、2018年7月に「八松一仁税理士事務所」を設立。企業や個人事業主にとことん寄り添い、悩みや課題に応えています。



就職氷河期が勉強のチャンスに

高校卒業後、地元の専門学校に進学した八松一仁さん。ホテル・観光科で学びながら、簿記3級試験に合格した際、数字を通していろいろなものが見えてくる会計のおもしろさに気づきました。2年生になり就職を考えるも、時代は暗く厳しい就職氷河期。身を立てることができる資格を取るべきだと考え、「税理士を目指そう!」と決めたのは、20歳の時でした。

専門学校卒業後は、あえて就職はせず勉強し、簿記1級と税理士試験の科目の1つである簿記論の試験に合格。あとの4科目は働きながら合格を目指そうと考え、会計事務所に就職しました。

予定では3~4年で税理士になれるはずでしたが、知人の紹介で就職した会計事務所は思ったよりも忙しく、新人は覚えることも山積み。残業も多くて勉強する時間が取れず、日々の忙しさに流され、目標が頭の片隅に追いやられてしまう状況になりました。

お客様を担当し、会社の財務や会計について相談にのり、一緒に課題解決していく中で、「仕事はおもしろく、やりがいがありました」と八松さん。お客様から頼りにされたり、喜んでもらったりするうちに「自分にとって一生の仕事だ」と実感し、「税理士になって独立したい」という思いが再燃しました。

会社概要

〒780-8050
所在地 高知市鴨路895-6
ウイズビル国沢1階
TEL 088-828-8558

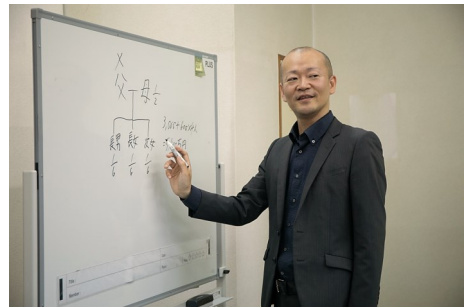


✎ 会社員として粉骨砕身の10年間

もう一度勉強して、チャレンジしようという八松さんの気持ちを後押ししたのは、専門学校時代の友人との再会でした。再会時、友人はすでに税理士になって活躍しており、10年の間に開いてしまった「税理士」と「会社員」の差に、「このままではいけない!」と奮起しました。

その頃の八松さんは、結婚して2年目、お子さんが2歳になる頃でした。家庭を支える立場でしたが、今の職場では十分な勉強時間が確保できないと思い、退職を決意。すると、担当していたお客様が事情を知り、「独立するまでの間、会社を手伝ってもらえないか」と、経理責任者として迎えてくれました。八松さんの仕事が評価され、お客様の信頼を得ていたことの証でした。

仕事は10時から19時まで、残業なしという勤務形態の中、朝早く起きて4時間ほど勉強し、夜は子どもと一緒に9時に寝る生活を続けること5年間。残りの4科目すべてに合格し、税理士の資格を取得したのは2017年12月、36歳の時でした。21歳で1科目を取ってから、15年。会社員として業務に没頭しながらも、目標を見失うことなく挑戦を続けてきたのは、八松さんの強さです。



✎ よろず相談が得意な税理士に



その後、開業準備に着手し、会社員時代から懇意にしていた銀行の担当者に資金について相談したところ、高知県信用保証協会を紹介されました。「開業といっても、準備をするのは事務所とその備品程度で、大きな投資は必要ありませんでした。ただ、複数の会社と顧問契約を結ぶなど、事業が軌道に乗るまでが長く、その間の資金として融資をお願いしました」と八松さん。税理士は顧客開拓が非常に難しく、すでに顧問税理士がついている企業に営業し、割り込むことはできません。縁を頼りに、顧問税理士を探している企業を紹介してもらうという地道な作業が必要となります。

八松さんは「それでも、一度会っていただくと、八松に任せたいと言ってもらえるんじゃないかな」と笑顔を見せ、「この仕事が好きという気持ちと、豊富な人生経験には自信があります!」と話します。

「会社の会計、個人の相続税、資産管理など、何でも相談してほしい。僕で解決できないことは専門家の知恵を借りることもできます。お金のことじゃなくても、何かお役に立てることがあるかもしれません」と話す八松さん。今後は、新しい知識も貪欲に学びつつ、中小企業支援などにも力を入れていきたいと意気込んでいます。



創業者に聞く!

保証協会利用のご感想



創業の際は大変お世話になりました。とても親身に話を聞いていただき、おかげで資金調達がスムーズに行えました。

近々、事務所の移転を計画しておりますので、その際はまた信用保証協会さんを利用させていただきたく思います。よろしくお願ひします。

取材へのご協力
ありがとうございました!



©デハラユキノリ